

1706 情報処理技術遺産 Fortran&HARP 認定

情報処理 2017 年 6 月号掲載の情報処理技術遺産認定 8 件の中に
学生時代の懐かしい以下の 2 件があった。

- (1) HARP 5020 関連資料 (国産初の最適化コンパイラ)

<http://museum.ipsj.or.jp/heritage/HARP5020.html>

「新設された東京大学大型計算機センターの初代計算機 HITAC 5020 の
FORTRAN コンパイラとして多くの研究者に利用された。」

- (2) JIS FORTRAN 入門 (上) (下)

http://museum.ipsj.or.jp/heritage/JIS_Fortran.html

「1960 年代後半・・・本格的なプログラミング教科書として出版された本書は、
・・・多くの学校や企業の演習テキストとして使われた、記念碑的な書籍である。」

私の修士論文「思考過程の数学的表現と模擬実験」の研究 (1969~1971.3) では、
FORTRAN プログラムをもちいて、ニューラルネットワークのシミュレーションを実施した。
(当時は、第一次 AI ブームだった)

そのため、M1 の時に学内の大教室で FORTRAN 講習会を受講した。
パンフには、講師は上記 (2) の著者：森口繁一先生と記載されていたが、
開始時間になると会場に大きなテープレコーダが運ばれてきて、
テープから森口先生の声が聞こえてきたのには驚かされた。

そして、FORTRAN プログラムの実行には上記 (1) の HITAC 5020 の FORTRAN コンパイラを用いた。
修士論文の付録の FORTRAN コンパイラの出カリストのヘッダーは以下のようにになっている。

[[HITAC 5020 COMPILED LIST](#)]

当時、大型計算機センターは混んでいて、CPU 時間が 30 秒以内のジョブは 2, 3 日で結果が出るが、
それを超えるものは 2, 3 週間待たされるので、処理時間を短くするのに苦労した記憶がある。
(1971 年に日立製作所に入社して、計算結果が即日出力されたのには驚かされた・・・)

【後日談】

- ・入社 2 年目に、この FORTRAN コンパイラを開発した N 氏が課長の職場に配属になった。
- ・当時の FORTRAN にはグラフ表示機能がなかったので、整数値を空白の数に換算して
この空白数の印刷後に文字を印刷するような FORMAT 文を作成して折れ線グラフを表示した。
この時、IBTOD という関数を用いたが、この関数の以下の意味はこの職場で知った。

IBTOD : Integer Binary TO Decimal

以上